



福岡の工場で「CBF-3015Ⅱ-M」を見学



定例会で今後の活動を協議

TNB

新役員体制を決議

福岡（福井）で工場見学

胴縁など鉄骨二次部材を製作する企業で構成される鉄骨二次部材加工グループ

（略称・TNB）は

7日、福井県鯖江市の福岡で33回目の定例会を開催し、7社

14人が出席。福岡大幸・福岡社長を会長

渡邊進・メタルプロダクツ社長を副会長

とする新役員体制を決議し、今後の活動を協議した。

TNBでは定例会で各社の工場見学と仕事量などの情報交換を実施してきた。

これまでの活動の意義として「工場見学で学んだことを自社の製作に生かした」

「横のつながりができ、共同受注につながった」「オンラインで実施した部門別

の社員交流が社員のモチベーションアップにつながった」などが挙げられた。

三重、静岡両鉄構組合が交流会

話し合える環境を整える

計24人が最新情報共有

三重県鉄構工業協同組合（理事長Ⅱ稲垣法信・IN A T E T S U社長）と静岡

県鉄構工業協同組合（理事長Ⅱ柏原正明・柏原鐵工所社長）は12日、静岡市内の

ホテルで交流会を開催した。



三重組合の出席者

また、今後の活動に関しては高品質の製品を安定供給する「TNBブランド」の確立に向けた提案や、部門別に社員が集まり、情報を交換する企画の要望があり、新しい活動にも取り組んでいくとした。

骨二次部材の安定供給を担い、また現場の課題解決に向け団体として働き掛けを進めていくよう、まずは新たな取り組みで会員拡大を進めたい」とした。

当日は福岡の工場を見学し、第4工場に設置されたタケダ機械の形鋼向け自動測長付き孔あけ切断複合機「CBF-3015Ⅱ-M」と自動搬出入システムによる製品仕分け自動化などについて情報を交換。さらに、見学後には二次加工ミス削減や安全対策、省人化の取り組みについて意見を交わした。

事前に双方の組合で課題を抽出。主に全国鉄構工業協会の統一書式・見積条件書の特記事項と全構協・九州支部が作成した輸送に関する見積条件書の活用状況や若手従業員の確保策と離職率低減への対策などを中心に意見を交換した。

統一書式・見積条件書では今年4月以降、出席各社がどのような形や考えを持って活用または活用を検討しているかを提示。その中で、テレビCM（アニメ）の活用による効果、地元高校の教員へのアプローチの重要性や生徒向けの奨学金制度の設置、退職金制度の整備、公平な人事評価制度の確立など具体的な

事例を公表した。最後に、稲垣、柏原両理事長は「今回の交流がまずは第一歩。両県とも独自の事業活動を実施している中で、お互い共有できる事業も今後は展開できるはず。困った時に仕事の協力体制や鋼材1本でも融通し合えるような関係構築を目指したい」と締めくくった。



静岡組合の出席者